

鷹岡の厚原に 伝わる 曾我の首洗い井戸

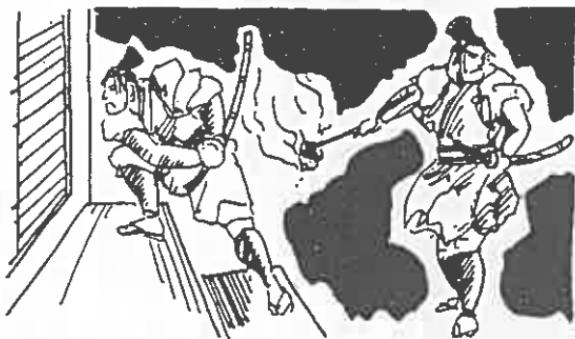
昭和六十二年十月五日号

鷹岡厚原の曾我八幡宮から凡夫川に沿って、三百步ほど北へ行くと「曾我の首洗い井戸」があります。昔、曾我五郎の首を洗った場所だと伝えられています。

兄弟のあだ討ち

それは今から八百年ほど前、源頼朝が鎌倉に幕府を開いたころ、建久四年（一一九三年）五月二十八日の夜のことでした。こゝは富士のすそ野、上井出（富士宮市）の里です。

「我々は伊東の城主祐親の孫、曾我の十郎並びに五郎なり。たつた今、親のかたき工藤祐経を討ちとつたり」



と、親のあだ名を果たした曾我兄弟の姫に、

巻物の仮小屋に眠つていた武士たちは、我も

我もど、刀を振り上げて切りかかつてきました。

兄弟は死力を尽して戦いましたが、ついに力尽きて、兄の十郎は「田四郎忠常」討

たれ、弟の五郎は御所の五郎丸として武士に

取り押さえられてしましました。

ヒノスガ、將軍源頼朝は、その場で五郎を殺さないで、鎌倉へ送ることになりました。しまはられた五郎が、大勢の武士に守られて鷹ヶ丘（今の鷹岡）まで来たときのことです。祐経の子、犬房丸が、「ここで五郎を討たせてください」と泣いて頼むので、護送してきた武士たちは、犬房丸に五郎を討たせてしましました。そして五郎の首は、この池で洗つて、たん鎌倉へ持つて行き、やひに曾我の田のじ

へのへ廻りになりました。

鷹ヶ丘の人々は「この池が血の池になつた」と伝えていました。

そして五郎の亡きがらは、近くの福泉寺（今

の曾我寺）へ葬られたところです。

池の水が赤くなる

杉山市太郎さん・杉山光雄さん

案内してくれた杉山市太郎さんと杉山光雄さん（区長）は、「私らが小さいころは、まだ水はあつたね。関東大震災のときから水がなくなつたような気がするな。伝説だと思うけど親からは、毎年五月二十日には、池の水が赤くなつたって聞いっこねよ」と語ってくれました。